

24:12 主はモーセに仰せられた。「山へ行き、わたしのところに上り、そこにおれ。彼らを教えるために、わたしが書きしるしたおしえと命令の石の板をあなたに授けよう。」
24:13 そこで、モーセとその従者ヨシュアは立ち上がり、モーセは神の山に登った。
24:14 彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに帰って来るまで、ここにいなさい。ここに、アロンとフルとがあなたがたといっしょにいます。訴え事のある者は、だれでも彼らに告げるようにしなさい。」
24:15 モーセが山に登ると、雲が山をおおった。
24:16 主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。
24:17 主の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。
24:18 モーセは雲の中にはいって行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。

このシナイ山は神の臨在が顕された所で、この後に造られる幕屋や神殿を思わせます。ここで分かることは、幕屋や神殿が作られる前から、主の臨在は栄光そのものであり、私たち人間が畏れるべきものであるということです。ということは、神様は幕屋や神殿ができてようやく人に現れたのではなく、それ以前から存在しているということ、だから神の臨在は人の手に依らないということです。

私たちは何か自分の信仰が自分を救ったように思えたり、すなわち自分には救われるような要素や氣質があったと思えたりします。または神様のみわざが現れる時には、自分の能力や頑張りや忍耐でそれができたと思うときがあるかもしれません。それは

勘違いなのです。神様の臨在は私たちの手に依るものではありません。

謙遜になり、ただ神様のみわざに感謝しましょう。それゆえ自分が弱い時にも、主のみわざが進むのだと信じて、安心し、ゆだねて、自分の分を果たしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

